

【研究主題】 小学校での教科担任制の充実を目指して

【副題】 児童一人ひとりを大切にしたい学級・学年経営

【所属校名】 滋賀県 彦根市立河瀬小学校

【職名・氏名】 (教諭) 村川 琢哉

<主題設定の理由>

近年、小学校での教科担任制が広がっている。そのことについて、当初わたしは、否定的な考えでいた。学級担任制のよさは、担任と児童との教室での時間が長く、たくさんの物語を紡いでいけることだと感じていたからだ。

そんな個人の思いは別として、文部科学省の提案や働き方改革の観点から本校でも教科担任制を推し進めることになった。そこで、なんとなく教科担任制を行うのではなく、中学校とは区別して小学校での教科担任制を考えていきたいと感じた。

<内容と方法>

「学級担任制を超える教科担任制にしたい…」そこで教科担任制のメリットを大きく、デメリットを小さくしたいと考え、メリット・デメリットを考えた。

メリット

- C いろいろな先生と関わる機会がある
- C 気持ちの切り替えができる
- C 教科をより深く学べる
- T 複数の目で児童理解ができる
- T 教材研究の負担軽減・教材研究の深まり
- T 得意を活かせる・苦手を軽減できる
- T 評価が揃う

デメリット

- C 担任とのつながりが薄れる
- C 教科と教科のつながりが感じにくい
- T 学級の児童の理解が浅くなる
- T 学級の児童とつながりを作る時間が減る
- T 時間割の調整が難しい

(C…児童・T…教師)

これらのことから学年の先生方に3つのことを提案した。

1. 毎日・毎時間の学習で大切にすることを共有すること。児童の対話の時間を増やし、児童が聞くこと・訊くことを大切にする。どの教科の授業でも大切にしていることは、同じだと児童が感じられるようにする。これが、小学校での教科担任制における強みだと感じる。

2. 担任との時間が少ないからこそ、担任とのつな

がりを意図的に作ること。朝の会や帰りの会で、作文を書く時間を設け、そのノートにコメントを書いたり、ハンコを押したりする。児童が思いを話せる・児童の思いを聞く時間を作る。なるべく、教師の負担の少ないように取り組む。

3. 他のクラスの児童のよい姿を伝え合う。伝えてもらった姿は翌日児童に伝える。児童が「認めてくれる先生が増えた」と思えるようにしたい。

教科担任制が進められるにあたって、わたしの担任する学年(一昨年度(6年生)・昨年度(2年生))は、交換道徳を提案し、行ってきた。これは、一人の教師が一つの単元を3クラスで行い、それをローテーションしていく。また、今年度(6年生)は、国語科の書写(入り授業)・理科(専科)・英語(専科)、音楽科・家庭科・図画工作科(これらの3つの教科は担任団)で教科担任制を進めている。音楽科・家庭科・図画工作科は年間授業時数が同じぐらいなので時間割の調整も融通が利きやすいと感じている。

<成果と課題>

◎今年度、わたしは図画工作科を担当している。音楽科・家庭科を担当する学年の教師の専門性が高いので、学級・学年の児童がのびのびと学習し、成長していることを感じる。

◎特に高学年児童は、女子児童と男性担任・男子児童と女性担任との関係づくりに気を遣うように感じる。教科担任制で様々な教師と関わるができるため、児童が様々なつながりをもてることで、安心につながっているように感じる。また、担任も全て自分で行うとするのではなく、学年の担任団を頼れるので、気持ちが軽くなるように感じる。

△学級担任制のときより、担任と学級の児童との時間が少なくなっていることから、朝の会(10分)・帰りの会(20分)という学級での時間をより充実させていく必要があると感じる。少ない時間をどのように工夫できるか考えていきたい。

△学年の担任それぞれが、目指す学級に向かっているか…ということ。もっとやりたいことがあるかもしれないし、教科担任制であることで、その時間が取れていないかもしれない。そのことは、忘れないでいたい。